選択必修・選択：外科

Ⅰ．目標と特徴

本プログラムは初期研修ローテーションの一環として、外科を研修する医師を対象とする。全人的医療の概念を理解し、プライマリーケアが出来る基本的な診療能力を身につけることを目的に、主治医とともに担当する患者の入院から退院にいたる経過を４期に分類し、その各々に一般目標（General Instructional Objective :GIO）と行動目標(Specific Behavioral Objectives:SBOs)を挙げ、より実践的な初期研修が行えるようにカリキュラムを組んだ。

Ⅱ．医師リスト

研修指導責任者　：　丹　野　弘　晃
指　　導　　医　：　杉　田　純　一（プログラム責任者）
　　成　島　陽　一
上　　級　　医　：　小　田　　聡
　　菊　地　大　介
医　　師　　櫻　井　　毅

Ⅲ．評価

研修の評価は定期的に指導医、研修責任者が行い、研修医も自ら自己評価を行う。

Ⅳ．研修内容と到達目標

症例を受け持ち､以下の１～４の４期間においてGIOとSBOsについて研修する。

１．患者の入院から手術計画を立てるまでの期間をとおして、

GIO-１：一般目標

患者の情報を収集整理し、評価と対策を行いながら、治療計画を立てる一連の過程を理解する。

SBOs　：行動目標

（１）患者、その家族と良好な人間関係を保ちながら病歴を聴取し POS 方式で記録出来る。

（２）全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記録することが出来る。

①　頭頚部（リンパ節、甲状腺などを含む）
②　胸部（乳腺を含む）
③　腹部（直腸診を台む）
④　四肢（末梢循環を含む）

（３）患者の疾患を理解し、どのような治療が必要かを述べることが出来る。
（４）患者の一般状態を評価し、患者独自の問題点とその対策を述べることが出来る。
（５）手術の前に必要な一般検査の結果を解釈し、対策を立てることが出来る。
（末梢血液検査、生化学検査、尿・便検査、動脈血ガス分析、免疫血清学的検査、心電図、呼吸機能検査、胸部・腹部単純Ｘ線など）
（６）異常な情報について指導医、専門医にコンサルテーション出来る。
（７）同僚、後輩に教育的指導（屋根瓦式指導）が出来る。
（８）疾患に特異的な検査を指示・実施し、所見を記録出来る。
（造影検査、超音波検査、CT、MRI など）
（９）受け持ち患者の病歴・所見を簡潔にプレゼンテーション出来る。
（10）採血法(静脈、動脈)を実施出来る。
（11）注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴用の血管確保）を実施出来る。
（12）中心静脈の確保の方法を説明・実施出来る。（局所麻酔法を含める）
（13）術前補液、中心静脈栄養法を理解し指示することが出来る。
（14）術前処置の必要性を理解し説明することが出来る。
（15）保険制度や医療経済も考慮した治療計画を述べる（立てる）ことが出来る。

２．手術（入室から病棟に帰るまで）をとおして、
GIO-２：一般目標
手術における消毒操作、局所解剖や科学的根拠に基づいた手術手技を修得する。
SBOs　：行動目標
（１）主治医とともに患者を安全に手術室に搬送出来る。
（２）手術体位のとりかたを述べることが出来る。
（３）手術に必要な特殊機器について説明出来る。
（４）予防的抗生剤の選択と使用時期を指示出来る。
（５）胃管、膀胱留置カテーテルなどの必要性と方法について説明・実施が出来る。
（６）外科の手洗いを行い、清潔な操作でガウン・手袋を身に着けることが出来る。
（７）術野の消毒を行うことが出来る。
（８）術野のドレーピングの実際を述べる（実施する）ことが出来る。
（９）皮膚切開、その止血（用手的、電気メス）を行う事が出来る。
（10）汚染創の外科的処置について説明出来る。
（11）開腹・開胸に必要な解剖を説明することが出来る。

（12）脈管の結紮・切離法を行うことが出来る。
（13）局所解剖・臓器の生理機能の点から各々の手術操作を説明出来る。
（14）術野を展開するために助手として協力できる。
（15）術野の洗浄・ドレーン留置の原則を説明できる。
（16）閉腹・閉胸に必要な解剖と手技について述べることが出来る。
（17）皮膚縫合を行うことが出来る。
（18）主治医とともに安全に病棟まで搬送出来る。

３．術後早期において、

GIO-３：一般目標

術後管理法、手術記録の記載法、術後合併症について理解する。

SBOs　：行動目標

（１）主治医とともに術後輸液、輸血、抗生剤、鎮痛剤などの投与法を指示することが出来る。
（２）術後 vital sign を評価し、主治医・指導医にコンサルテーションが出来る。
（３）主治医とともに手術所見を記録することが出来る。
（４）術後の血液検査・画像所見を評価し、それらの所見や術後経過を POS 方式で記録することが出来る。
（５）術後の創処置（消毒・ドレッシング・抜糸など）を行うことが出来る。
（６）ドレーン排液の性状や量の異常を主治医・指導医にコンサルテーション出来る。
（７）胃管、膀胱留置カテーテル、ドレーン管理と抜去の時期について説明出来る。
（８）ベッド上での体位変換、喀疾排出、離床を主治医とともに介助出来る。
（９）術後合併症とその治療法について述べることが出来る。
（10）術後経口摂取時期について述べることが出来る。

４．退院にむけて

GIO-４：一般目標

患者背景を考慮し、follow up を含めた退院計画をたてる一連の過程を理解する。

SBOs　：行動目標

（１）退院を前に起こりうる合併症について注意を払うことが出来る。
（２）退院時期について説明することが出来る。

（３）ＱＯＬを考慮に入れた外来での治療計画を述べることが出来る。
（４）薬物療法の必要性と投与方法、副作用などについて説明出来る。
（５）主治医とともに手術報告書、診断書、証明書、診療情報提供書を作成し管理することが出来る。
（６）主治医とともに退院時要約（follow up 計画を含め）を作成し管理出来る。